

「箸」

過去と現在の架け橋・・・

箸は日本文化そのものです。それは日本国中のすべての家庭、すべての台所に存在します。「日本人の一生は箸に始まり箸に終わる」という言葉があるように、日本では、新生児が生後



100日目を迎えると、初めて箸を使って食事を与えられます。その子供が生涯、食物に恵まれ健康で過ごせるようにと祈念して行われる、「お食い初め」と呼ばれる儀式です。箸は確かに、われわれ現代生活の中に溶け込んでいます。

●さて、古代ではどうだったのでしょうか・・・？

「箸」と「橋」は同音異義語です。箸は「かけはし」の意味を持つ「橋」と同じ発音です。



その昔、人々は箸を神と人間を繋ぐ方法の一つとし、神聖なものと考えていました。二本の棒の片方の端を人間のもの、もう片方を神のものと考えたのです。そして食事の折、その二つの先端が触れ合い、神と人間の間に橋がかけられました。当初、人々にとって、箸を使って食事することは神と食物を共有することだったのです。

●箸を使おう！

一般的に、日本の子供達は、まだ本当に小さい頃から箸を使う時の礼儀を教えられます。親達は、子供達が正しい箸の持ち方を習得するまで根気よく練習させてきました。しかしながら、今の時代は「正しい箸の持ち方」は、より多くの親達にとって、その重要性がより少なくなっていくつつあるようです。

食事を始める時、先ず、片手に箸を持ち、もう片方の手を皿に添える。食べ物を切り分ける、かき混ぜる、泡立てる、のせる、巻く。そして、その食べ物をはさみあげ静かに口へ運ぶ。ほとんどの料理をナイフ、フォーク、スプーンで食する西洋とは違い、箸はそれ一つが、とても多機能です。



正しい箸の持ち方は以下のように行います。



◎一本を親指と人差し指のくぼみにはめ、中指の上に軽く置く。⇒ 二本目を親指、人差し指、中指の三本で鉛筆の要領で持つ。⇒ 両端が合うように箸先をそろえる。

食べる時に動かすのは二本目の、上になる棒のみ。

●箸のルーツはどこでしょう？ 日本由来の物なのでしょうか？



古代の日本では、今でいう箸は竹の棒一本を折り曲げ、その先端はピンセットのようにつながった形状でした。それは「折箸」と呼ばれ、時の天皇だけが使用することができました。

二本に分かれた箸が、日本にお目見えしたのは7世紀の前半です。聖徳太子が中国に送った使節団が、中国文化と共に中国から持ち帰ったのでした。食事の折、二本の箸を使う習慣はこの時に始まったのです。



又、最初は、箸は竹でのみ作られていました。漢字の「箸」の上部分に、「竹」という漢字が含まれているのは、その状況からきたものです。

18世紀になると、人々は杉、白檀、松、チーク材等、様々な木材で作られた箸を使用しました。そして、現在は、商店には、入念に技を凝らして創りあげられた塗の箸から、プラスチック、あるいは、使い捨ての箸までが商品として並んでいます。

現在、この高度先端技術の時代において、日本の文化が薄れつつある中、箸は、その価値が薄れることなく、しっかりとその生活に根を張り、それだけでなく、さらなる発展を続けています。

